

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第2回弘前市文化財審議委員会議
開 催 年 月 日	令和6年10月20日（土）
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時00分から午後4時00分まで
開 催 場 所	弘前市岩木庁舎2階 会議室3 木村家住宅、長勝寺
議 長 等 の 氏 名	委員長 関根達人
出 席 者	委員長 関根達人 委 員 岡田俊治 委 員 内山淳一 委 員 小松勇 委 員 瀧本壽史 委 員 中村琢巳 委 員 古川祐貴 委 員 堀内弦 委 員 山田巖子
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	文化財課長 石岡博之 同課長補佐 小石川透 同課文化財保護係長 高木一誠 同課主査 棟方隆仁
会 議 の 議 題	（1）木村家庭園実見 （2）長勝寺所蔵藩主画像実見
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	・資料1 木村家庭園について ・資料2 弘前藩主津軽家関連画像について
会 議 内 容 （発言者、発言内容、 審議経過、結論等）	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題1 木村家庭園実見

事務局 今いるのがこの仏間というところの前になります。ここから庭を見るかたちになります。沓脱石があって、飛び石があって、そこに礼拝石といわれている大きい石があります。この庭は大石武学流という、このあたり一帯で続けられてきたお庭の流儀に則って作られた庭になります。

 どういうものが大石武学流の基本的な要素になるかという、この座敷の前から、礼拝石までの空間に、蹲踞^{つくばい}があって、反対側に二神石、ニシンマエといわれるような空間を作ります。あとは礼拝石とこの沓脱石の間を飛び石で繋ぐ、そのうちのどこかで分かれて、蹲踞にいたり二神にいたりしますが、V字的な飛び石を組むというのが基本的なところです。

 あと、礼拝石の奥が池になります。池は水が入ったり、枯れとか色々ありますが、基本は池になって、その奥にさらに滝石組を組んで、小さい築山を作って、その奥に、深山石、ミヤマイシとも呼ばれる、滝流れの一番の源流になる石を置いて、そのさらに離れた所に遠山石という小さい山形の石を置きます。これが基本的な大石武学流の構造で、ここのお庭もそれがすごくよく残ってます。

 時期的には、池田亭月という大正から昭和初期にかけて活躍した庭師、大石武学流の宗家ですけれども、彼が手掛けた庭だといわれております。主屋自体は昭和25年に保存登記してますので、それ以前から建っていると考えられます。庭だけ先にあることは、まずほとんどなくて、母屋を造って庭を作る流れになりますので、母屋の方をさらに調べてみればわかるかもしれませんが、100年位は経ってる庭ではないかと今考えているところです。

 植栽は、今は少し剪定していない雰囲気ですけども、これはもっと詰めていくと、岩の形とかもよく見えてくると思いますし、イトヒバとか松とか大石武学流では定石といわれている植栽をきちんと配置してますので、そういう意味でも定石を外さない、流儀に則ったお庭であると考えられます。

 りんご農家の農家住宅の住宅庭園としてあるわけで、この母屋もそうですし、茅葺の小屋であるとか、そういったところも出来れば一帯で価値付けをしていきたいと考えているところです。

堀内委員 前の4件の名勝の指定の時には、こちらは候補にならなかったんですか。

事務局 調査報告書の中で類似調査庭園として調査した庭の一つです。

関連する庭園、なるべく母数を増やすためにも、悉皆調査した中でピックアップした中の一つに入っています。

瀧本委員 全部、同じ石ですか？種類は。

事務局 石の調査まではしてないですけど、基本は輝石安山岩になると思います。岩木山由来だと推測されます。時代が昭和50年代以降になると、鳥海山の石が入ってきたりするんですけど、それまでは、基本地元の石を使うので。

内山委員 これは、何か儀式をするなどのいわれがあるんですか。

事務局 礼拝石は拝むためのもので、ここに物を載せて拝んでいたということです。別の庭園所有者の、今90才を過ぎたおじいちゃんが子供の頃は、この石の上に物を載せてお供えして、その方のおじいちゃんが拝んだりしていたと話していました。

内山委員 どこかに神様の依代とかがあるのか、そういうのはあまりない？

事務局 他の庭だと庭の中に社があって、神様がいるというのがあるんですけど。何か特定の物をというより、庭に手を合わせるという事で先祖であったりとか、収穫が終わった後の感謝とか、そういったことに繋がるみたいです。

堀内委員 やっぱり、剪定を2年以上やっていないと大変ですね。最初の最初はもっとキュっとしてて、石を見せてたと思うんですけど。さし枝で作ってたのが大きくなちゃって、しかたないですね。

 これも根締めだったのが、望外に大きくなって、もっと切り詰めると、たぶん石組みが見えてくる。

事務局 ほんとは、滝石もちゃんと見せたいはず。深山石が隠れてしまっている。ほんとは、そこから流れがきている。こっちの庭師さんって鉄入れるのあまり入れたがらない。

関根委員長 これはみんな当初からのものですか。

事務局 当初からの物だと思います。石とかも特にいじってないので、植栽もですね、後から足したことはあったかもしれないですけど。

岡田委員 こうやって見るとみんな植物は緑色ぽいんだけど。大石武学流って、石の配列で、大石武学流だとだいたいわかるといわれてる。そこがVの字になっているように。なので植林して四季折々のとかというこだわりが、あまり強くないの？

事務局 常緑樹が多いですね。緑の木が多いです。紅葉とかツツジは入れます。

岡田委員 仮にこれが市の文化財指定になった場合、市の方で助成していく。維持していくための助成が出るということか。

事務局 維持していくための助成は厳しいですけど、たとえば大きく強剪定するとか、母屋を直すとかそういうことに対する補助金は出せるようになります。

岡田委員 これに、こういうお庭があと10個位あると。ここはそのうちの1つだということなんだけど、これが仮に文化財の指定になって、あと9つも、文化財に指定となった場合、予算的な配慮はできるのか。

事務局 そうですね、それもあるのできちんと残っているところを指定したい。ここの評価すべき点は母屋とか構成しているものがちゃんと残ってるんです。他は建物を建て替えてたりで庭だけが残っているとかが多いので。ここは全部残ってるというのが一つ価値の高いところです。

議題2 長勝寺所蔵藩主画像実見

内山委員 まず、そちらに3幅、こちらに4幅あります。正面、そちらの方がですね、中心に初代為信公、右に信枚公、左が三代信義公ということになってます。こちらの絵を描いたのは御用絵師の今村常慶という画家で、制作年が元禄4年、1691年ということになってますね。これは何かの記録に基づくものでしたか。

事務局 これは藩庁日記に載ってます。

内山委員 元禄4年2月5日。公開された説明によりますと、長勝寺には戒名の入っ

た画像三幅。それから岩木山神社には国主賛ということなので、名前が違ったかたちで書かれたもの、これは戒名、いわゆる諡号、忌み名が書かれているわけですけど。それとは別に国主賛ですから何とかの守。それから江戸藩邸には賛が無い物。つまり3セット描いて、それぞれの施設に納めたというふうに記録されている様です。これ以外に、岩木山神社には残っていますか。

事務局 確認されてないです。

内山委員 それから、前回の会議で画像紹介されましたけど、これが黒石にある黒石神社の同じセットです。こちらは、江戸狩野のそれぞれですね、法眼絵師で狩野安信、それから洞雲、そして常信という江戸狩野の主だった画家3名が描いているものが残されていて、画像の表現もまったく同じなので、生没年からすると当然こちらの方が先行するんですね。

こちらを描いた今村常慶というのは、狩野常信というこの絵（信義）を描いた画家の弟子です。という事からすると、本来は黒石神社に現在残っているこの三幅が先行する作品としてあって、長勝寺本はそれに基づいて描いたものというふうに考えるのが普通の考え方かなと。

ただ、ここで注意すべきは、黒石神社の物は二代が黒い袍なんですよ。三代が赤い袍。こちら（長勝寺本）は、二代・三代とも赤ということなので。初代は従四位なので黒い袍で束帯姿、黒い服でいいんですけども、二代三代は従五位だと思しますので、そうすると本来は赤い袍が正式だと考えられます。だとすると黒石神社はなぜ黒で、こちらが赤なのかという、そのあたりの解明がたぶん必要になってくるかなと。黒石神社が格を上げるためにあえて始めに黒く描いていて、それを後から写すにあたって正式なものに描き換えたというふうに考えることもできるんですけども、そのへんが解明すべき点として残されています。

それから黒石神社本には一切賛も何も入ってない。という事も解せないなということと、そもそも先行する作品三幅がなぜ黒石神社にあるのか。普通でしたら同じセットか、これにさらに賛か何か入った、より格の高い図様のものが、長勝寺に収まってなくてはいけないはずなんですよ。にもかかわらず、逆転現象が起きてるってことは、本来は長勝寺にあったものが何らかの形で黒石の方に流れてしまったか、というような事も相互的に考えていかないと、実態が見えてこないかなという気はしております。

事務局 黒石神社に入ったのは近代になってからという事らしいので。藩主家から入れたとかではなく、そうではないルートから入ってきた様です。

内山委員

実は明日、黒石神社さんの方にお邪魔して、この作品も見せて頂くという事になっています。あと伝来を示すような書付もあります。これも写しのようにです。これだけ奉書というか包む紙が当初の物なのに、中身だけ写しになっています。だから、本当はこれの原本がどこかにいつてしまっているという事もあるって、色々複雑な事情がありそうな気はしております。

ただ、そうは言ってもこちらの残されたもの（長勝寺本）は、やはり藩独自に描いたものとなるでしょうから、同じ意味合いあるいはそれ以上にですね、この賛がしっかり施されているという事。3セット描かれた中でも一番格の高い描き方をしているのは、たぶんこのセットだろうというふうに思われますので。そういう意味からすると、岩木山神社に本来あるべきものが残されていないという事からするとですね、貴重さはより増すのかなという気がしております。

あと、描写方法としてはですね、非常に丁寧に描いておりまして、束帯のそれぞれの文様も、近くで後で見て頂けるとわかりますが、非常に丁寧に文様が施されています。

一つ気になっているのがですね、今回改めて見直してみたら、二代信枚の顔が、黒石神社本は結構若いんです。長勝寺本は、少し中年になってからの顔。つまり、ただ写しただけではない。その辺もあって、ある意味で情報を更新しているというわけではないのですが、より実態に即した描き方をしているのがこちらの作品かもしれないなという思いはあります。

あと、表具は初のままなので当初の物をそのまま残してるという事です。

残念ながら箱は新しくなっています。本来は、三幅セットで入る箱で、漆かなんかの外箱があったのではないかという思いはしておりますけど、何らかの形で失われてしまったという事だと思います。こちらについては以上です。

こちら4幅。6代藩主・信著公。こちらは賛に何も入って無く、たぶん制作年は少し下がる感じ。当然、生没年もそうですので、江戸後期という事になるかと思います。この持っている中啓の表現なんかも、結構細かく模様も描かれておりますし、表情にも意外と個性が見えてるので、それなりの絵師、まあ御用絵師だと思いますけど、優れた絵師が描いたものと考えていいかと思います。

ただ、こちらは、紙本、紙なんです。普通、藩主の画像だと絹、絹本に描くのが本来のあり方だと思いますので、なぜ紙なのかちょっとわかりません。紙じゃいけないということではないのですが、いくつか描かれてる中でも一つが残ったものという事かもしれないです。

それから右側が仙桃院絵像です。初代為信公の正室を描いたものです。尼さ

んの姿をしておりますので、夫が亡くなった後の姿ということになるかと思ひます。こちらが本来の原本で、これを忠実に写したものがこちらという考へでいいんだらうと思ひますけども。この間気づいたのは、こちらの模様は、銀泥で描いています。菊の文様とかですね。ところがこちらは墨で描いています。銀が空気中の硫黄分に化学反応おこして、ちょっと黒くなって、これは銀の特色なんですけれども、黒くなった後に写したものですから、銀の色ではなく墨の色で描いているという事だらうと思ひます。ですからある程度時期が経ったのちに写したものだという事は言えると思ひます。

それから、一番作柄の中で優れているのはこの作品（満天姫絵像）です。これは二代藩主の正室という位置づけになるのですかね。

画像ですけど、絹に丁寧に描かれております。何よりも優れているのが、この色彩豊かな表現ですよ。一応、手に数珠を持てますけれども、まさに桃山風の豪華さをそのまま残している。その意味では、この中でも最も古い作品といえるかと思ひますが、制作年まではハッキリしてないです。満天姫が亡くなったのが1638年。50歳で亡くなつてますので、生前の姿なのか、その辺は分かりませんが、ただ、いわゆる法体というか尼さんの姿はしてないですね。ですから、あくまでも桃山夫人像として描かれていたという事です。桃山の夫人像のなかでもかなりレベルの高い作品だと思ひます。

注意すべきはこの手前に置かれていた台なんですけれども、よく見て頂くと、この背後にですね、この畳の縁の表現が少し見えているんです。という事は、始めはこの台は無かつたんです。後からこれを付け加えて描き足しているという事です。ですから、これは、満天姫を礼拝するために後から付け足された可能性もあるかなと。

だから当初は、満天姫だけの上げ畳に座った夫人像として描かれ、それから後で付け加えて礼拝像、要するに亡くなった後に、仏壇に掛けたり、どこかに掛けて礼拝するための像として作り変えられたという物だらうと思ひますね。ですからこの作品を見る時には、その部分を一回除いてこの夫人像だけでイメージして見る見方をする必要があるかなというふうな思ひでおります。

表具についてはたぶん、もともと当初はもっと金襴とか豪華なものが使われていたと思ひますので、変えられている可能性はありますが、絵自体は元々の物が割とよくこの時代の物にしては残っているのです、すばらしい。一部顔が傷んでいるので、若干墨を足してもう一度書き起こしている可能性はありますが、ほとんど原型は変えてないと思ひます。という事で、こちらは県の指定文化財になつてもおかしくない位の出来だらうと思ひてます。だいたい概要は以上です。

関根委員長 画像が残るのは御影堂の為信、それから五棟の霊屋の人だけなんです。それがまず言えること。元禄4年1691年に、信政が作っている。信政の命で長勝寺と岩木山神社と江戸藩邸。その二つはセットがわからない、行方不明。

事務局 黒石に入っているのが、そのうちの一つ。か、江戸藩邸のものだったか。要は、今村がその年に国元に下ってきて、長勝寺さんと百沢寺に納めているんですよ。江戸にオリジナルがおそらくあったと考えられます。

内山委員 こちら（長勝寺本）は表具形式も違うんです。黒石神社のものは仏画表具なんです。こちら（長勝寺本）は大和表具なので少し簡素になっている。

関根委員長 だとしたら黒石神社のものが江戸藩邸にあったものなのだろうか。

内山委員 その可能性はありますね。

関根委員長 描いた絵師は違いますが、同じ元禄ごろと考えていいのですか。

内山委員 三人の中で江戸狩野筆頭の安信が1685年に亡くなっていますから元禄より少し前になります。

これは江戸に置いておくものとして決められていたとすれば、今村常慶が写したのは2セットだけという風にも考えられる。それが長勝寺本と今はない岩木山神社本と考えてもいいのかもしれませんが。

基本的には今掛けられているこの7幅が指定対象ということでよろしいでしょうか。

事務局 それでお願いします。

内山委員 （満天姫像）やはりこれが圧倒的に出来が良い。これは辻が花染めの衣装で描かれていて、当時流行していたものだから実際に着ていたものなのではないかと思います。

数珠が描かれていますので夫の死後と考えられますが、このころだとまだ、髪を下さなければいけないという時代でもなかった。桃山の婦人の肖像画として純粹に描かれたと考えてもよいと思う。よく残ったなど。

以 上